

現代用語

差し迫る時代の状況を受けとめ、
明日を見据えるための1,660ページ

since
1948
昭和23年
創刊

の

基礎知識

The Encyclopedia of contemporary words

別冊
付録

流行語大賞30周年

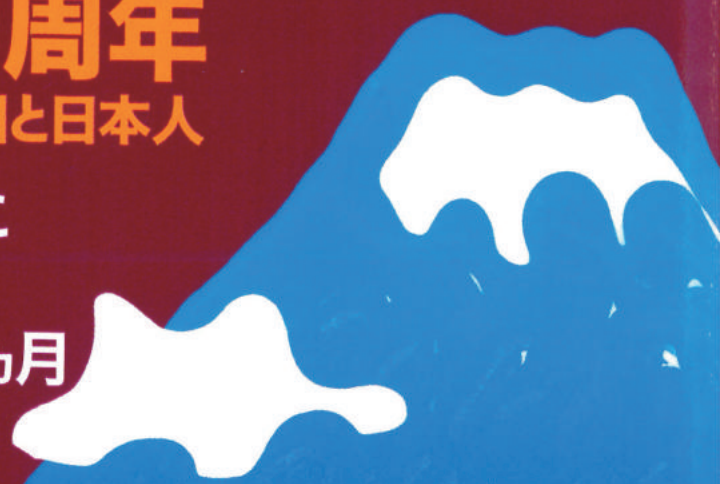
受賞語で振り返る30年の世相と日本人

特集

日本国憲法を考えるために

震災の海、再生と営み

三陸鉄道、再開への3年1ヵ月



2014

震災の海、 再生と営み

特集

Yasuaki KAGII

鍵井靖章

震災直後の海中は、沈んだもの（人間の生活の残滓）が多く見受けられ、悲しみの海底が続いていた。生き物たちの命の気配もほとんど感じる事がなかった。しかし、時間の経過とともに海中は変化していく。海底に沈んだ車などを生き物たちは棲み家にし、また、確実に再生してゆく海中世界を象徴するように芽生えた海藻、産卵する魚など生命の息吹もとらえた。そして、漁師さんたちは、漁場で再び活気を取り戻していく。灰色だった海が鮮やかな生命の色彩を取り戻す過程を追いつづけた。

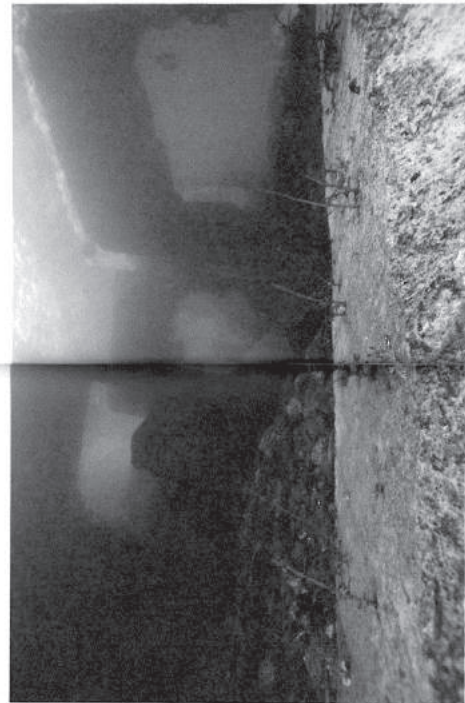
鍵井靖章（かぎい やすあき）

1971年、兵庫県生まれ。水中写真家として世界中の海をフィールドに撮影を続ける。大学在学中に水中写真家、伊藤勝敏氏に師事。震災直後からは、定期的に岩手県宮古市の海に潜り、再生の様子を伝えている。写真集『アンカ日和』（マガジンハウス）、『海中散歩』『夢色の海』（ハイ・インターナショナル）、『ダンゴウオ 海の底から見た震災と再生』（新潮社）など多数。

池内では、事がひっくり返った海原に沈んでいた。いくつも漁網が絡まっていた。2011年12月18日 宮古市日出島

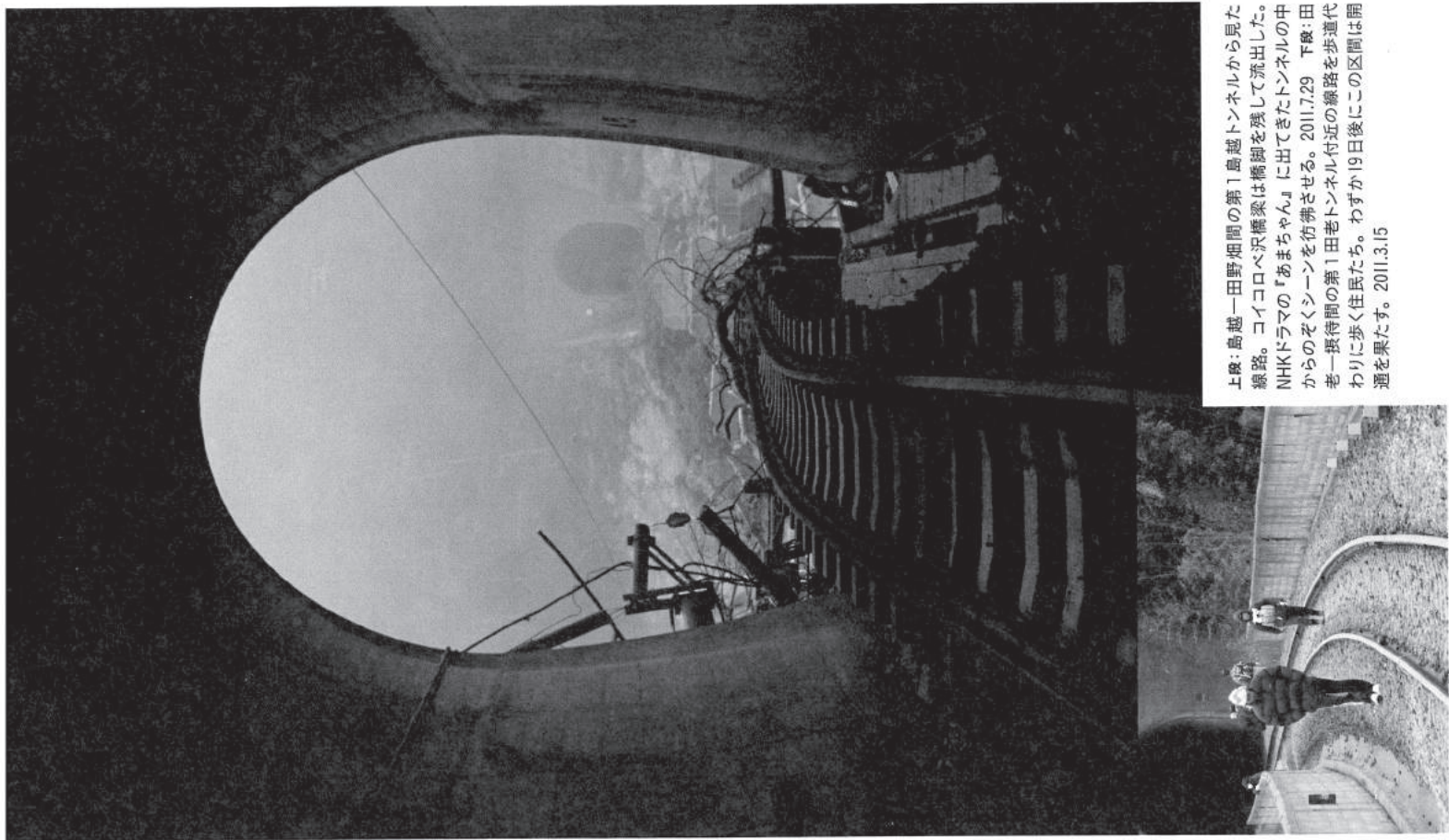


上：壊れたアップライトピアノが沈んでいた。近くにはシンバルのセットも泥に埋もれていた。2011年4月5日 大船渡市赤崎 右下：海底には、引きちぎられたような海藻が生えていた。2011年12月18日 宮古市日出島 左下：ヘドロのままみれたランドセルにイトマキヒトデがついていた。津波で全壊した赤崎小学校の生徒のものだろうか。2011年4月5日 大船渡市赤崎



上段：まるで平行移動したように海に沈んだ家屋。周囲には人間生活の様々な品々が散乱していた。2011年4月5日 大船渡市赤崎 中段：玄関には、明るい日射しが差し込んでいた。2011年4月5日 大船渡市赤崎 下段：海中に沈んだ家の窓を撮影。2011年4月5日 大船渡市赤崎

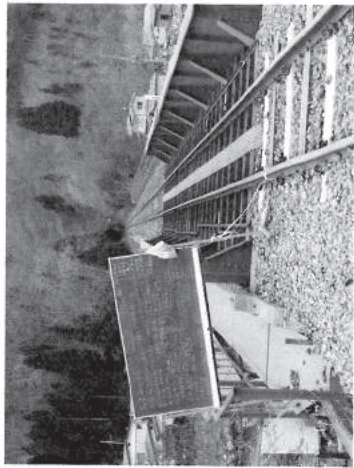




上段：島越一田野畑間の第1島越トンネルから見た線路。コイコロベ沢橋梁は橋脚を残して流出した。NHKドラマの『あまちゃん』に出てきたトンネルの中からのぞくシーンを彷彿させる。2011.7.29 下段：田老一摂待間の第1田老トンネル付近の線路を歩道代わりに歩く住民たち。わずか19日後にこの区間は開通を果たす。2011.3.15



上段：島越駅につながる高架橋。宮沢賢治の童話からつけられた愛称をもつカルポナード島越駅は、観光センターが入っていた駅舎や階段が、津波のために跡形もなく流出した。2011.4.23 下段右：佐羽根一田老間の神田川橋梁に括りつけられた伝言板。震災後4日目で安否情報や所在地確認の書き込みが見られる。2011.3.15 下段左：田老一摂待間を単行で走るディーゼルカー。津波は田老の集落を守るはずだった防潮堤をやすやすと乗り越えて家並みを呑みこんだ。



日本国憲法を

考えるために

戦後68年。憲法施行66年。

改憲へ向けた動きが、活発化しています。

この憲法をもう一度考えてみませんか。

私たちの未来のために。

C・ダグラス・ラミス

C. Douglas Lummis

1936年生まれ。政治学者。カリフォルニア大学バークレー校卒業。60年に海兵隊員として沖繩に駐留翌年除隊。津田塾大学教授を経て、現在沖繩国際大学講師。近著に『増補 憲法は、政府に対する命令である。』（平凡社ライブラリー）。

事実をつくる言葉

日本国憲法の三大原則は主権在民、戦争放棄、基本的人権の尊重だと言われる。その原則を理解するために、大日本帝国憲法（通称明治憲法）と比較するといふ。明治憲法前文の最初の言葉は「朕」である。つまり、天皇が明治憲法の語り手であり、その憲法は天皇の言葉＝命令である。それは憲法の形として珍しくない。憲法の前文というのは、特殊な言葉の形をとることが多い。既にある事実を言うか、あるいは将来の事実を予測するのではなく、事実をつくる言葉

である。日常生活にもそういう言葉はある。社長が「クビだ」と言ったら仕事はなくなる、試験官が「合格」と言ったら運転免許がもらえる、判事が「無罪」と言ったら（法的に）無罪になる、などの例がある。それぞれの場合、発言している人は、そのような発言をする権限を持つ人でなければならぬ。憲法の場合、前文は「これをこの国の憲法にする」という宣言なので、語り手は、その発言をする権限のあるもので、つまり「主権者」でなければならぬ。明治時代の政治思想によると、主権者は天皇だった。現憲法前文の最初の言葉は「日本国民」である。つまり、現憲法の語り手は「日本国民」で

あり、その憲法の言葉は日本国民の言葉＝命令である。「主権在民」はただ憲法の中に指定されてある原理だけではなく、憲法の構造そのものが主権在民なのである。そして明治憲法と似ているところはもうひとつある。明治時代の政治思想によると、憲法は天皇の命令である以上、天皇は憲法に縛られていない。命令する人が自分の命令に従う義務はないからだ。それと同じ論理で、現憲法には、主権者である国民がこの憲法を守らなければならない、というような条項がない。

「押し付け」の意味

「憲法改正」を勧める人たちは、現憲法が「押し付け憲法」だと批判する。押し付け憲法は間違いないが、それは批判にはならない。よい憲法はみな押し付け憲法だからだ。憲法とは、政府の権力を制限するものだ。政治権力を握っている者——それが国王であろうが少数独裁者であろうが——自ら自分の権力を制限することはなかなかないので、そのような憲法は押し付けられないものでない。それは、英国王ジョンが（手を震わせながら）大憲章に署名して以来、そうである。

1945年、米占領軍と日本国民には考えが合わないが多かったが、一致したところが

ひとつあった。それは、大日本帝国政府には権力が多すぎる、ということだった。占領軍はその権力を減らす憲法案を作成した。もちろん、当時の大日本帝国政府の政治家がその憲法案を嫌がり、なるべく反対し、サボタージュしようとした。しかし、占領軍プラス国民の政治力で、それが憲法になった。したがって「アメリカ」は「日本」に憲法を押し付けたのではなく、占領軍と日本国民が大日本帝国政府の政治家に押し付けたのである。

そして、その政府から奪った権力をアメリカは持つて帰ったのではなく、日本国民に移した。具体的に、まず、前述したように、天皇の代わりに、国民を主権者にした（天皇を法の枠外の存在から、法の枠の中に入れた）。そして政府に基本的人権を守る義務を押し付けた（人権条項は政府の権力を制限する条項である。つまり、政府は必ず法を守らなければならないとか、政府に気に入らないことを人が表現しても、それだけで逮捕してはならない、など）それによって、大日本帝国憲法の下で「臣民」であった国民が「市民」になった。そして第9条で、政府に戦争をする権限を持たせないことにした。

現実にはロマンチックではない

これはただ「平和主義を尊重する」という弱

い条項なのではなく、「主権在民」と同じように、憲法の構造に組み込まれている。それは、主権在民の原理により、政府には主権者である国民が渡した権力・権限があり、それ以外はない、ということだ。

第9条の最後の言葉は、「国の交戦権は、これを認めない。」となっている。「交戦権」とは、国の兵士は戦場で人を殺しても、それは殺人犯にはならない、という権利だ。それがないと、戦争も軍事行動もできない。

第9条に関してロマンを持つている人がいるが、現実はそのほどロマンチックではない。憲法前文と第9条に書いてあること、つまり「軍事力ではなく平和外交で国を守ること」は実現されたことがない。日米安保条約によって米軍基地が日本にあるし（そのほとんどは植民地の沖縄にあるのだが）、日本はアメリカの「核の傘」の下にいるし、自衛隊も存在する。もちろん、別の国の軍隊に守ってもらうことは「戦争放棄」とは言えないだろう。しかし、第9条が矛盾だらけだといっても、事実上のよい結果がひとつあった。

この憲法ができて以来ほとんど70年のあいだ、一人の人間も日本国の交戦権の下で殺されていない、ということだ。1945年以前の日本の状況を考えると、それはかなりの成功だと言えるだろう。

「主権者」は誰なのか

2012年4月27日、自由民主党は、新しい「日本国憲法改正草案」を公表した。現憲法がやっている仕事をもとに戻す形になっている。前文の最初の言葉は「日本国民」ではなく、「日本国」であり、「主権者」が誰なのかはぼやかされる。憲法の勢いとして、「政府に対する命令」から「国民に対する命令」に変わる。無条件の人権を（大日本帝国憲法と同じように）条件付きにする。「平和主義」を言い続けるが、「国の交戦権は、これを認めない。」を削除する。そして、憲法第99条を改正する。第99条とは次の通りだ。

——天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

自民党の「草案」には、「天皇又は摂政」が削除されている。天皇の憲法を守る義務をなくすのだ。つまり、天皇を法の枠の外へ戻すことになる。そして次の言葉を新しく付け加える。

——全て国民は、この憲法を尊重しなければならぬ。

これははっきりした、国民に対する命令だ。しかし、誰が命令しているのかが、はっきりしないのだ。

がん治療

この分野を
読む



近藤 誠

慶應義塾大学講師

こんどう・まこと ●1948年生まれ。慶大医学部卒。「患者よ、がんを闘うな」「がん放療法のすすめ」「医者に殺されない47の心得」ほか。第60回菊池寛賞受賞。

●人気女優のアンジェリーナ・ジョリーが両方の乳房を切除した。彼女の母親が卵巣がんで、叔母(母の妹)が乳がんで亡くなっており、「BRCA1」という遺伝子(DNA)の異常(変異)が原因である。ジョリーもこの変異遺伝子を受け継いだので、自身の乳がん発症確率は87%、それが乳房切除で5%になると語っている。

●しかしジョリーの乳房内には、すでにがんが生じていた可能性があり、その場合、乳房切除は無駄になるかもしれない。がんの性質は「がん幹細胞」によって決まってしまうからだ。

●正常組織内にはがん幹細胞が生まれると、分裂を繰り返して、がん初発病巣へと育っていく。しかし乳がん初発病巣が大きくなっても人は死なず、肺や肝臓などへの転移で亡くなる。そして、がんが転移するかしないかは、がん幹細胞の性質によって定まり、転移性のがん幹細胞だと、その発生のごく初期に転移してしまうと考えられている。

●切除されたジョリーの乳房は検査に回され、がん細胞は発見されなかったということだが、乳房は大きいので、1ミリの程度のがん病巣は通常見逃されてしまう。しかしその中には、100万個ものがん細胞が詰まっている。したがって、がん病巣の発症率は下がっているが、乳がんによる死亡が減るかどうかは不明なままである。

注目語

▼がん幹細胞 [Cancer stem cell]

人体を構成する臓器・組織には、それぞれ「幹細胞」が存在している。幹細胞の特徴として、①分裂して同

じ性質の細胞を作り出す能力(自己複製能)と、②さまざまな細胞に分化する能力(多分化能)がある。

近時の研究で、白血病、脳腫瘍、乳がん等のがん組織においても、自己複製能と多分化能を有する細胞が存

在することがわかってきた。これががん幹細胞で、一方では、自己と同じがん幹細胞を複製し、がん幹細胞が枯渇しないようにしている。他方

では、その他大勢のがん細胞を生み出すもととなり、がん組織を形成す

る。自己複製されたがん幹細胞の一部は休眠状態にあり、抗がん剤や放射線に反応しにくい。治療抵抗性の主因である。また手術で、がん細胞

が一個でも残ると、再発に結び付くと考えられている。

くらしと経済

この分野を
読む

●政府が2013年6月に規制改革実施計画を閣議決定した。くらしに直結する労働分野の規制緩和は四つ。第1は「ジョブ型正社員の雇用ルールの整備」だ。ジョブ型正社員とは「限定正社員」のことで、職種や勤務地を限定する代わりに、工場や営業所の廃止をする際に解雇を可能にすることが検討されている。政府は、非正社員を限定正社員として正社員化できる点を挙げているが、解雇規制の厳しい正社員が、解雇が容易な限定正社員に置き換わる可能性が高い。

●第2は「企画業務型裁量労働制やフレックスタイム制等労働時間法制の見直し」。これはホワ

イトカラー・エグゼンプションの導入だとみられる。第1次安倍内閣で労働ビッグバンの一環として議論された制度で、一定以上の年収があり、企画型業務を行う非管理層のサラリーマンについては、労働時間ではなく、成果で管理できるといふもの。無制限に働かされ、残業代も支払われなくなるために、残業ゼロ制度とか過労死促進制度と批判されお蔵入りとなっていた。政府は、「産業競争力強化法案」に盛り込む「企業実証特例制度」を活用、大手企業数社で実験的な取り組みの開始を検討している。

●第3は「有料職業紹介事業の規制改革」だ。

民間の職業紹介事業者が、求職者からの紹介手数料を徴収できる職業の拡大が検討されている。

●第4は「労働者派遣制度の見直し」。専門26業務以外で3年間と限定されている派遣労働の上限期間を個人単位に切り替える案が検討されている。現在は、同じ業務に派遣労働者を使うのは3年が限度。それを個人ごとの期間制限に変えることで、同じ業務をずっと派遣労働に置き換えることが可能になる。

●こうした規制緩和で非正社員化の流れが加速し、正社員もまたより厳しい働き方が求められるようになると思われる。



森永卓郎

経済アナリスト

もりながたくろう●1957年東京都生まれ。東京大学卒。著書「平和に暮らす、戦争しない経済学」「価値組社会」「庶民は知らないアベノリスクの真実」ほか。

▼消費税増税

注目語

社会保障の財源として、本当に消費税増税が適切なのかについては、慎重に検討する必要がある。現在、医

療と年金には、税金もつき込まれているが、多くの財源は、加入者が支払う保険料になっている。厚生年金は、年収の16・766%相当の保険料を収入比例で負担している。例えばこれを消費税で賄うとする

と、大きな問題が生ずる。一つは、逆進性の問題だ。所得が高い人ほど収入から消費に回す割合が低いので、収入に対する消費税の負担率は低所得者ほど大きくなる。そのため、もし社会保障費用の増加分を消

費税で賄うようにすると、低所得者に負担が集中してしまう。もう一つの問題は、企業負担だ。厚生年金や社会健康保険は、保険料の半分を企業が負担している。ところが、消費税で社会保障費を賄うようになれ

マンガ

この分野を
読む

●「はだしのゲン」の作者・中沢啓治が73歳で永眠したのは2012年12月のこと。広島の被爆者として、1968年の『黒い雨にうたれて』以来、実体験に基づく数々の原爆マンガを描き残した。被爆差別もあってデビューからしばらくは原爆にはふれなかったが、火葬した母の遺骨が放射能で粉々だったことが許せず、怒りを込めて構想を練ったという。

●13年6月に「ゲン」は連載開始から40周年を迎えた。掲載誌は「週刊少年ジャンプ」(集英社)。73年当時、吉沢やすみ『ど根性ガエル』やとりいかずよし『トイレット博士』などが人気を集めていた。そこに居並ぶ「ゲン」は、単なる反戦マンガではなく、家族愛や兄弟のかけあいに泣き笑い、不条理な力やいじめに立ち向かう、紛れもない少年マンガだった。

●75年の単行本化を機に「ゲン」は、図書館や学級文庫に置かれるようになる。掲載誌はやがて市民運動や教育評論の場に移っていった。その結果、「学校で堂々と読めるマンガ」「大人が薦めるマンガ」としても、いまなお多くの読者に「ゲン」は記憶されている。

●中沢亡き後、展示や講演、各種報道を通じ、「ゲン」の再評価が高まった。その一方で、2012年12月に島根県松江市の教育委員会が一部の過激な描写を理由に「ゲン」を学校図書館で閉架措置にするよう要請したことが、13年8月に表面化して全国的に議論が飛び火した。

●推薦にせよ抑制にせよ「大人が決める」という力関係に変わりない。それは表現規制問題の本質とも重なる。「戦争の記憶の継承」や「性暴力の描写の影響」など、いまこそ正面からマンガに向き合い、専門的かつ持続的に議論すべき時だ。「クールジャパン」だけではマンガはつかめない。大人の目線だけでは「ゲン」の声は届かない。



吉村和真

京都精華大学教授

よしむら・かずま●1971年福岡生まれ。京都精華大学国際マンガ研究センターによる本稿を執筆・監修。京都国際マンガミュージアム研究センター長。編著「マンガの教科書」ほか。

注目語

▼「俺物語!!」

原作・河原和音／作画・アルコ。2011年に「別冊マーガレット」ster(集英社)で読み切り掲載

後、12年より「別冊マーガレット」(同)にて連載中。身長2m、体重100kg超の無骨な外見という型破りの少女マンガのヒーローが、男らしすぎる活躍とピュアな恋愛模様を展開、読者の笑いと共感を集めた。

「このマンガがすごい! 2013 オンナ編」第1位、13年講談社漫画賞少女部門受賞など、数々のランキングや受賞を総なめにした。本作が掲載された「別マ」こと「別冊マーガレット」は、「マーガレット」とともに13年で創刊50周年を迎えた。「別マ」では、椎名軽穂『君に届け』や咲坂伊緒『アオハライド』など、学園を舞台としたピュアな恋愛ものが、「マーガレット」では、あいだ夏波『スイッチガール

ト」とともに13年で創刊50周年を迎えた。「別マ」では、椎名軽穂『君に届け』や咲坂伊緒『アオハライド』など、学園を舞台としたピュアな恋愛ものが、「マーガレット」では、あいだ夏波『スイッチガール

女子

この分野を
読む

●2014年度版より、「女子」ジャンルが新設された。ここ数年、「若さ」や「女性らしさ」に重点をおいた「〇〇女子」や「女子力」といった言葉が増えるようになった。「大人女子」という言葉も生まれたことで、「何歳までが女子なのか」というテーマもネットを中心にたびたび話題にあがっている。

●もともと「女子」という言葉には「女の子、むすめ」という意味だけではなく、「女、女性」という意味もあり、「女子トイレ」「女子スポーツ」など、「女」では少し乱暴過ぎるが、「女性」だと丁寧過ぎるといふときに、フラットな表現



深澤真紀

コラムニスト・編集者

ふかさわ・まき●1967年東京生まれ。早稲田大学卒。「草食男子」で2009年流行語大賞トップテンを受賞。

として「女子」が使われることが多かったのだが、06年に筆者が日経ビジネスオンラインで名づけた「草食男子」「肉食女子」が話題になったことで、「〇〇男子」「〇〇女子」という表現が増えたといわれる。筆者自身も05年に発表された「メガネ男子」を参考にして、「草食男子」を名づけているのだが、「〇〇男子」という表現を選んだのは、「男の子」という意味ではなく、「男」や「男性」という言葉の「重さ」を払拭したいという意図であった。

●男女を表す表現には、「少年」と「少女」はあっても、「青年」だけで「青年」はない。「少年」

にも「青年」にも男女とも含まれるとはいえず、やはり男のイメージが強い。若い女性を表すのに、「青女」という言葉はなく、かといって「娘」という言葉では野暮ったすぎる。そこで「女子」という言葉を自分に対して使うことは、いまの女性たちの気分に沿っていたのだろう。

●この「女子」ブームを牽引しているのは女性誌である。女性誌としては後発組の宝島社はこの数年「女子」や「大人女子」を前面に押し出すことで躍進し、また老舗女性誌の「an・an」では「大人の女性になるために、女子を卒業しよう」と打ち出して、話題になっている。

▼女芸人

注目語

2013年はフジテレビの「27時間テレビ」で森三中やオアシスなどの女芸人人口が女性として初めて司会

を務め、日本テレビの「24時間テレビ」では森三中の大島美幸が24時間マラソンのランナーになった。オアシズの大久保佳代子のブレイクも話題になり、女芸人ブームといわれている。かつての女芸人という存在

は、夫婦漫才や姉妹漫才くらいで「こうるさい妻」か「もてない独身女」という扱いだった。そんな女芸人界に変化をもたらしたのが、1980年代に登場した山田邦子、野沢直子、清水ミチコだ。彼女たちは当

時のお笑いブームを追い風に、その芸の力で女芸人の地位を確立した。最近の新たなお笑いブームもあって、女芸人はその数と種類を増やし、オセロ(13年解散)のように美人で女優や司会もできたり、柳原可奈

時代観察

この分野を
読む

●ポイント・オブ・ノーリターンという言葉がある。気候や滑走路の状況が変化し、飛行機の着陸が困難だと判断した時点で、機長は上昇に舵を切る。しかし、ある程度まで高度と速度が落ちてしまうと、もはや態勢の立て直しは不可能となる。日本社会も、2013年はそんな後戻り不可能なポイントだったと、後世から評されるのかもしれない。

●日本の戦後史は「国土の均衡ある発展」という建前と事実としての格差拡大の二重構造に貫かれてきた。池田内閣は1960年に「太平洋ベルト地帯構想」を打ち出した。この露骨な

「表日本」優遇政策に批判が集中したが、64年東京五輪開催で事態は一転。首都圏への公共投資は五輪を口実に肥大する。こうした流れにあらがおうとしたのが新潟出身の田中角栄で工場の再配置などを誘導する「日本列島改造」に挑んだが、ロッキード事件で失墜。結局、原発などリスク施設を地方に建設し、補償として交付金を還流させる構図を作るのが関の山だった。

●格差は「失われた20年」の経済不況で一段と肥大する。市町村合併特例法が制定され、約1500の市町村が消える中で登場した安倍自民党は12年末の衆院選、13年7月の参院選で疲弊



武田 徹

評論家／恵泉女学園大学教授

ただとある●1958年生まれ。国際基督教大学大学院比較文化研究科博士課程修了。著書『流行人類学クロニクル』『私たちはこうして「原発大国」を選んだ』など。

2013年を象徴する語

▼主権回復

1952年の4月28日にサンフランシスコ講和条約発効、敗戦国の日本

が被占領体制から脱した。それを記念し、政府主権による初の「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」が2013年4月28日に開かれた。しかし、サンフランシスコ講和条約は本当に主権を回復したのか。実は

日本の戦後体制は終戦前から準備されてきたのだとする説がある。対日心理戦略を計画するアメリカの心理戦共同委員会は42年5月の時点で天皇を「平和シンボルとして利用する」占領方針を早くも描いていた。そこでは天皇制を残すことで近隣諸国に戦争責任追及の不徹底を感じさせ、日本をアジアの中で孤立させることでアメリカへの依存を誘うことすら計算されていたという。こうしたシナリオはただ押し付けら